

たどえリセッテされても

医療と、AIと、AIと

6年 W.K.さん

精神科

初めてその言葉を聞いた時、変な言葉だと思った。医療というのは、体の治療をするもので、心の治療はできないと思っていたからだ。今では、薬やリハビリがないと治らないくらい重度の精神病もあることを知っているから、変だとはあまり思わなくなつた。でも、「たどえリセッテされても」は、その違和感を再浮上させてきた。

主役級でもないし、登場シーンも決して多くはない。それなのに私が強く心ひかれたのは愛のお母さんだった。子を産めない病気になり、さうに夫と死別。どちらも、私にはわからないくらいの悲しみだと思つ。だから、愛がお母さん的心を治療するロボットとして処方されたのもうなづけるし、お医者さんのその判断は適切だったと思つ。でも、その上じつと思つところ。

「あのまま愛を使い続けても、心の傷が完全に癒える」とはなかつただろうな」と。

リセットの罪悪感。ロボットだとわかつてゐるゆえの虚しさ。きっと、様々複雑な思いをかかえていたのではないだらうか。

近年、AIは人の生活にどんどん入りこんできている。身近に生成AIがあり、学校のクラスの人にきくと、多くの人がチャットGPTを使ったことがあると答える。

医療現場でのAIの使用が検討されているのだから、愛のような「心を治療するロボット」が登場するのも、そつ遠い未来の話ではないかもしない。だからこそ、考える必要があると思つ。人とAIの関わり方、特に「コロ」とAIの関わり方。愛のお母さんが、心に残した複雑な思いを、同じように感じる人がいないように。